

別冊給水装置工事施行基準

柏原水道事業

令和8年10月

柏原水道センター

目 次

3. 手続	1
3.3 事務手続	1
4. 設計	3
4.2 給水方式の決定	3
4.2.1 直結式と貯水槽式	3
4.5 給水管の口径決定.....	3
4.5.1 基本事項	3
5. 施工	4
5.1 指定材料及び配管方法.....	4
5.2 給水管の取出し	10
5.2.1 分岐	10
5.2.2 撤去	10
5.2.3 仕切弁等の設置.....	10
5.2.4 配管	15
5.3 土工事等	15
5.3.1 土工事	15
5.3.4 給水管の明示.....	15
5.4 メーター設置基準	20
5.4.1 メーター室の構造	20
6. 直結(直圧・増圧)式の施行基準	22
6.2 直結増圧式	22
7. 検査	23
7.2 企業団が行う検査	23

【その他】

様式集

別冊給水装置工事施行基準は、標準給水装置工事施行基準より優先する。

見出し(章節番号、段落番号等を含む)については、標準給水装置工事施行基準に準拠している。なお、別冊給水装置工事施行基準独自の事項については見出し番号を追加している。

3. 手続

3.3 事務手続(P.16)

1. 事前協議

(4) その他

- ・都市計画法による開発行為等の許可手続きにかかるもの

柏原水道センターが求める以下の書類を提出すること。

提出書類:「事前協議申請書」「公図」「土地登記簿謄本」「委任状」「付近見取図」

「現況図」「土地利用計画図」「造成計画図」「上水道計画図」「排水計画図」

「断面図、詳細図」「求積図(開発区域)」

- ・建築工事等に伴う上水道に関するもの

柏原水道センターが求める以下の書類を提出すること。

提出書類:「建築工事等に伴う事前協議依頼書」「委任状」「位置図・平面図・立面図」

「給水装置計画図(給水引込口径・水栓等の数を記載)」

2. 工事の申込み

○施行基準(表 3-2)に定める書類のほか、必要に応じて下記の書類を提出すること。

- ・給水装置工事材料明細書(φ 20mm～φ 40mm) (別冊様式第1-1号)

- ・給水装置工事材料明細書(φ 50mm～) (別冊様式第1-2号)

- ・給水装置撤去確認書 (別冊様式第2号)

- ・道路掘削工事(公道)がある場合は、道路占用許可申請書(1部)

上記以外にも柏原水道センターが必要と認める場合は、別途書類の提出を求めることがある。

○施行基準(表 3-3)に定める書類のほか、必要に応じて下記の書類を提出すること。

- ・直結直圧式・増圧式維持管理誓約書(柏原水道センター) (別冊様式第3号)

上記以外にも柏原水道センターが必要と認める場合は、別途書類の提出を求めることがある。

○給水主管工事を申込みする場合は、施行基準に定める書類のほか、下記の書類を提出すること。

① 事前協議成立通知書の写し

② 平面図 (縮尺 1/200～1/250)

③ 配管詳細図

④ 断面図

⑤ 交差図

⑥ 仮設配管図 (必要な場合)

⑦ 施工手順書

⑧ 給水主管工事誓約書 (別冊様式第4号)

⑨ 他企業管の埋設状況が確認できるもの (道路法第 34 条に基づく協議書の写し)

⑩ 寄附採納願 (様式第6号)

- ⑪ 土地掘削占用承諾書(採納用) (様式第7号)
- ⑫ 工事ビラ (着工1週間前まで)
- ⑬ 断水ビラ (断水1週間前まで)

9. 工事完了届及び工事検査の申込み

(1) 施行基準に定める書類のほか、必要に応じて下記の書類を提出すること。

- ① メーターより1次側を施工した場合
 - ・工事写真 (撮影項目は別冊 P24 参照)
- ② 使用材料に変更があった場合
 - ・給水装置工事材料明細書 (別冊様式第1-1号、第1-2号のうち該当するもの)
- ③ 配水用ポリエチレン管を布設した場合
 - ・継手チェックシート
 - ・継手番号管理図
 - ・融着履歴データ
 - ・融着継手箇所写真 (全箇所)
- ④ 貯水槽を設置した場合
 - ・貯水槽点検調査表 (様式第13-2号)

(2) 給水主管工事の申込みの場合は、施行基準に定める書類のほか、下記の書類を提出すること。

- ① 竣工図面 (A1または A2) 縮尺 1/200~1/250
- ② 既設給水装置の接合替え竣工図
- ③ オフセット図 (竣工図へ記載も可)
- ④ 工事写真 (撮影項目は別冊 P25 参照)
- ⑤ 水圧検査結果報告書 (別冊様式第5号)
- ⑥ 継手チェックシート、継手番号管理図、融着履歴データ
- ⑦ 道路占用許可申請書
- ⑧ その他必要と認めるもの

なお、上記①~④の書類については、CD もしくは DVD に保存し、電子データで提出すること。
また、①~③の書類については、「PDF」及び「DWG または DXF 形式の CAD データ」とすること。

10. メーター出庫

メーターは、竣工検査において、基準に適合していることが確認できた後に出庫する。

4. 設計

4.2 給水方式の決定

4.2.1 直結式と貯水槽式 (P.30)

3. 直結・貯水槽併用式

直結・貯水槽併用式については承認しない。

4.5 給水管の口径決定

4.5.1 基本事項 (P.41)

5. 寄贈を受ける給水主管の口径は、原則 50mm 以上とする。
6. 新設工事では、メーター及び給水管口径 13mm 及び 30mm については、原則承認しないものとする。

5. 施工

5.1 指定材料及び配管方法(P.73)

1. 使用材料の指定について

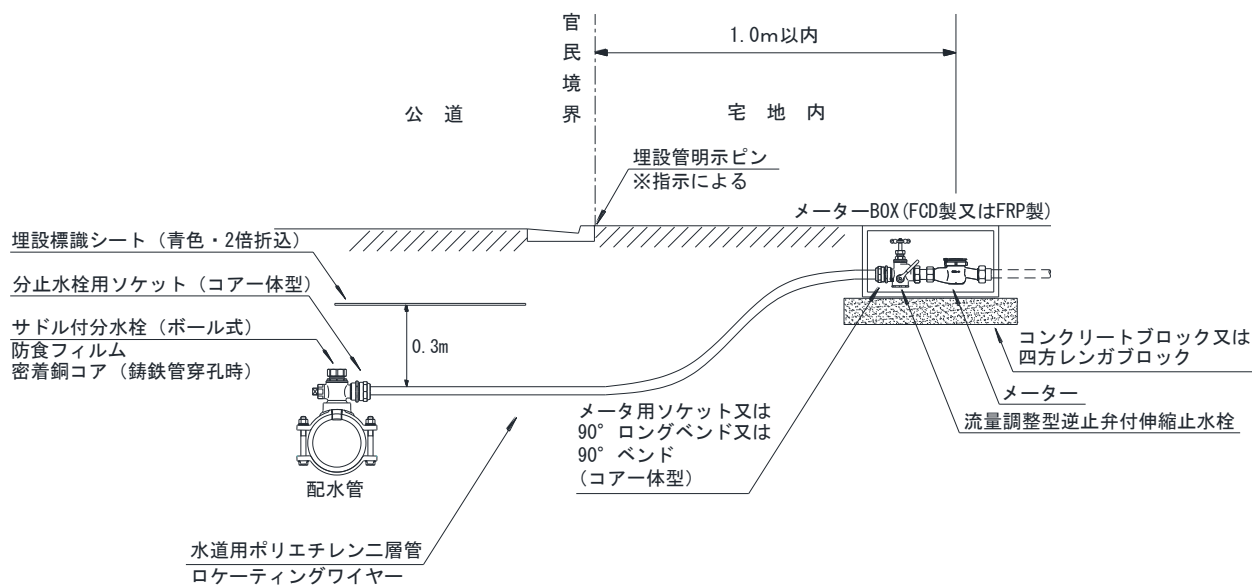
柏原水道センターが指定する給水管及び給水主管の主な材料は下記のとおりとする。

下記以外の材料を使用する場合は、柏原水道センターと協議すること。

種別	品 名	規 格	口 径	摘 要
管類	水道用ポリエチレン二層管(PP)	JIS-K-6762	φ 13～40 mm	軟質一種二層管
	水道配水用ポリエチレン管(PE)	JWWA-K-144	φ 50～150 mm	
	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管継手	JIS-K-6742 JIS-K-6743	—	ドレン用
せん 類	サドル付分水栓 (鋳鉄管用)	JWWA-B-117	サドル径: φ 40～350 mm 分水栓径: φ 20～50 mm	ボール式 分止水栓継手接続タイプ
	サドル付分水栓 (水道配水用ポリエチレン管用)	PTC B20	サドル径: φ 50～200 mm 分水栓径: φ 20～50 mm	ボール式 分止水栓継手接続タイプ
	サドル付分水栓 (水道用ポリエチレン二層管用)	JWWA-B-136	サドル径: φ 40～50 mm 分水栓径: φ 13～25 mm	ボール式 分止水栓継手接続タイプ
	サドル付分水栓 (硬質塩化ビニル管用)	JWWA-B-117	サドル径: φ 40～150 mm 分水栓径: φ 13～50 mm	ボール式 分止水栓継手接続タイプ
	サドル付分水栓用防食コア		φ 20～50 mm	密着銅コア
	甲型止水栓	JWWA-B-108	φ 13～50 mm	キーハンドル・平行おねじ
	ボール止水栓	JWWA-B-108	φ 13～50 mm	キーハンドル・平行おねじ
	直結止水栓	日水協認証登録品	φ 13～50 mm	流量調整型逆止弁付伸縮止水栓 副栓レバー差込口歯車型
	不断水割T字管	企業長が承認したもの	被分岐管口径: φ 75 mm以上	FCD製・内外面エポキシ樹脂粉体塗装・ ソフトシール仕切弁付、ステンレスコア
	水道配水用ポリエチレン挿し口付 ソフトシール仕切弁	PTC B22	φ 50 mm～φ 200 mm	FCD製・内外面エポキシ樹脂粉体塗装・ 開度計付・PE 挿し口付
	水道用ソフトシール仕切弁	JWWA-B-120	φ 50 mm以上	FCD製・内外面エポキシ樹脂粉体塗装・ 開度計付
	不断水バルブ	企業長が承認したもの	φ 75 mm以上	FCD製・内面エポキシ樹脂粉体塗装
継 手 類	水道用ポリエチレン二層管(PP) 用金属継手	WSA B012	φ 13～40 mm	コア一体型(耐震性能強化型)
	水道配水用ポリエチレン管(PE) 用継手	JWWA-K-145 及び配水用ポリエ チレンパイプシス テム協会規格品	φ 50～150 mm	電気融着
ボ ク ス 類	量水器ボックス	企業長が承認したもの	φ 20～40 mm	FCD製(T-8) 水マーク入 (車両乗入部以外の場合はFRP 製(T-2)でも可)
	止水栓ボックス	JWWA-K-147	—	耐荷重 T-14(C 形) 水マーク入 (敷地内の場合は T-8 でも可)
	仕切弁ボックス 仕切弁ボックス円形鉄蓋	JWWA-K-148 JWWA-B-132	—	レジコン製 T-25 企業団マーク入
他	管明示テープ	幅 50 mm・20m/巻	—	年号入り
	埋設標識シート (セーフティライン)	幅 150 mm・50m/ 巻	—	青色、2倍折込
	ロケーティングワイヤー	導電性ゴム被覆	φ 4.4 mm	

2. 配水管等の取付口から敷地内までの配管例は以下のとおりとする。

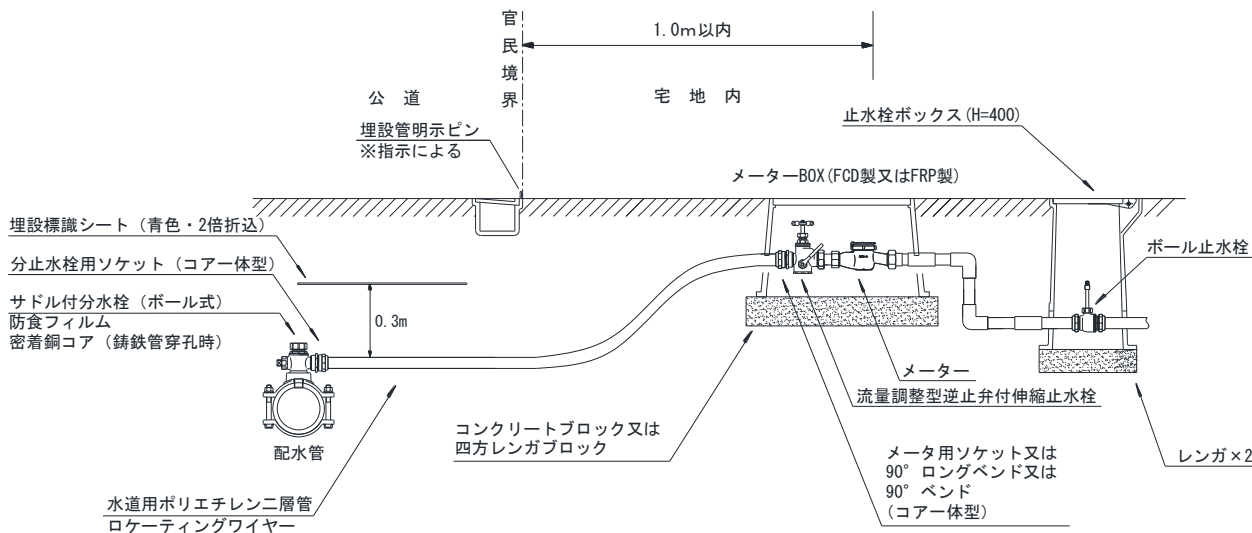
○口径 20mm～25mm



※分止水栓用ソケット～メーター用ソケットの間は原則継手を使わないこと。

※管周り 10cm 以上は再生砂で埋め戻しを行うこと。

○口径 40mm



※分止水栓用ソケット～メーター用ソケットの間は原則継手を使わないこと。

※管周り 10cm 以上は再生砂で埋め戻しを行うこと。

※管周り 10cm 以上は再生砂で埋め戻しを行うこと。

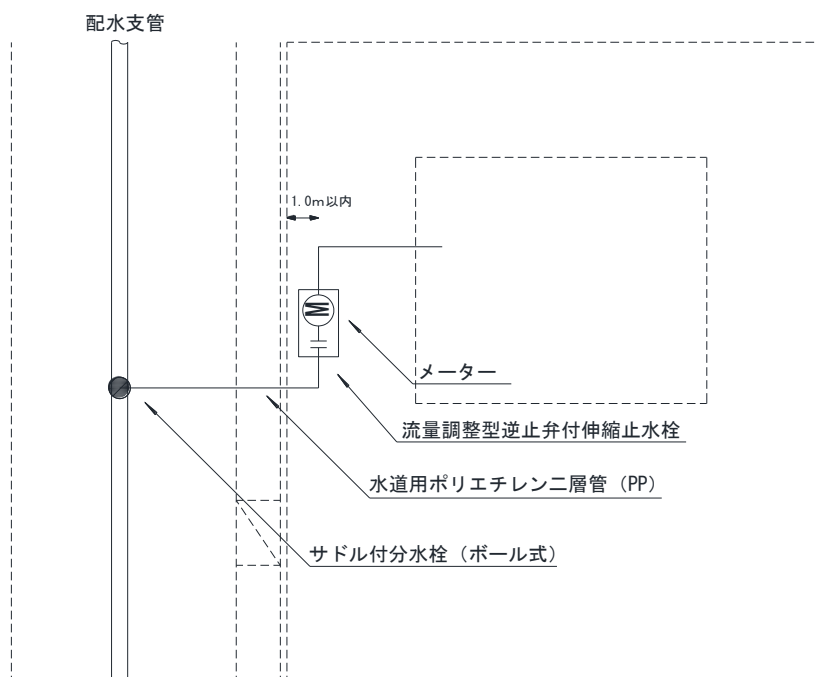
○口径 75mm 以上

※管周り 10cm 以上は再生砂で埋め戻しを行うこと。

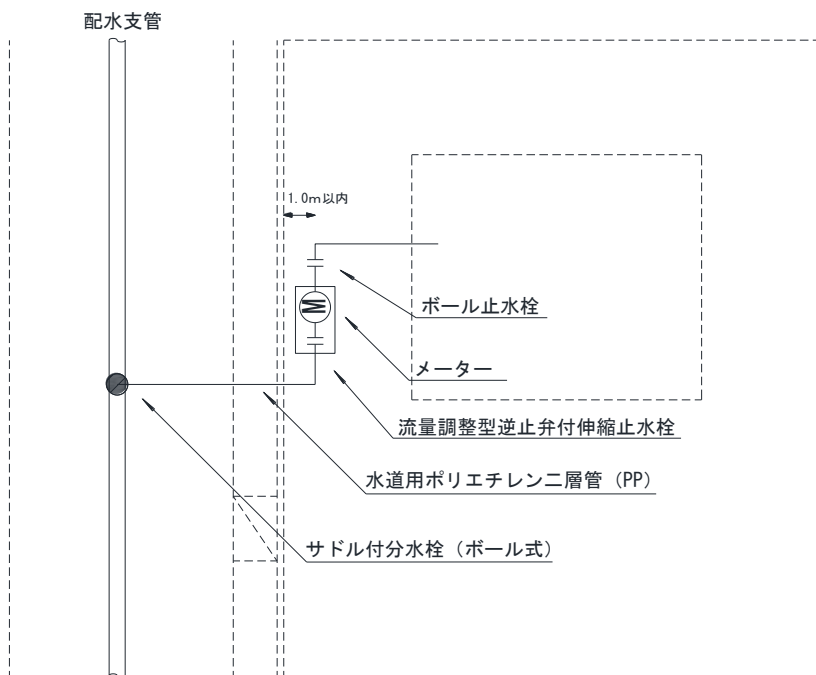
配管の平面図は下記のとおりである。

なお下記は一般的な配管例であるため、配管方法の詳細については柏原水道センターと協議すること。

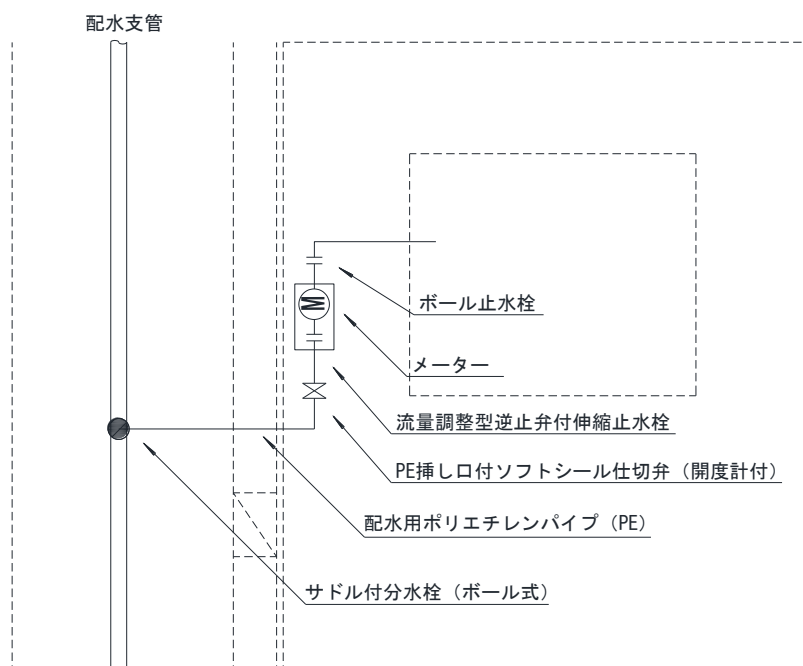
○口径 20mm～25mm



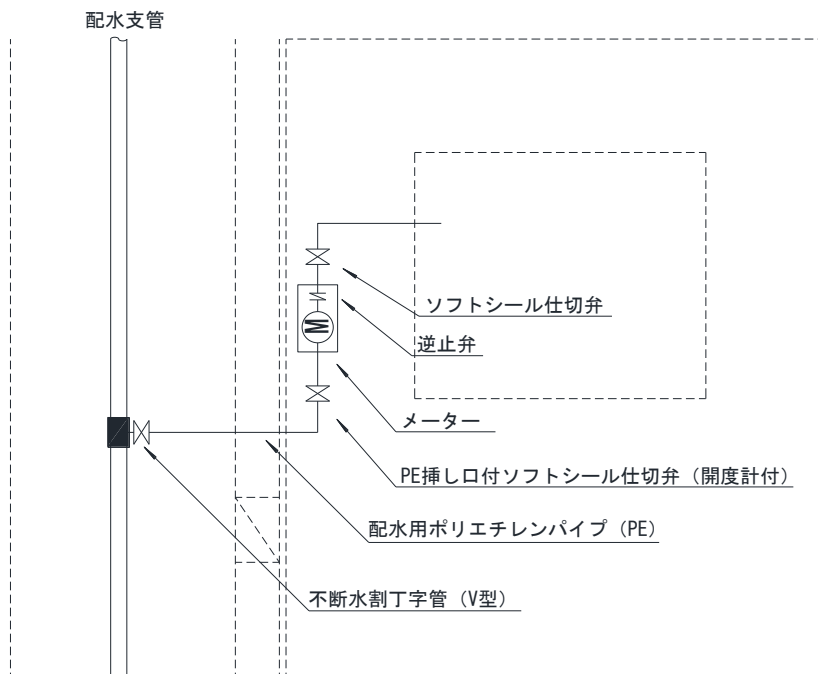
○口径 40mm



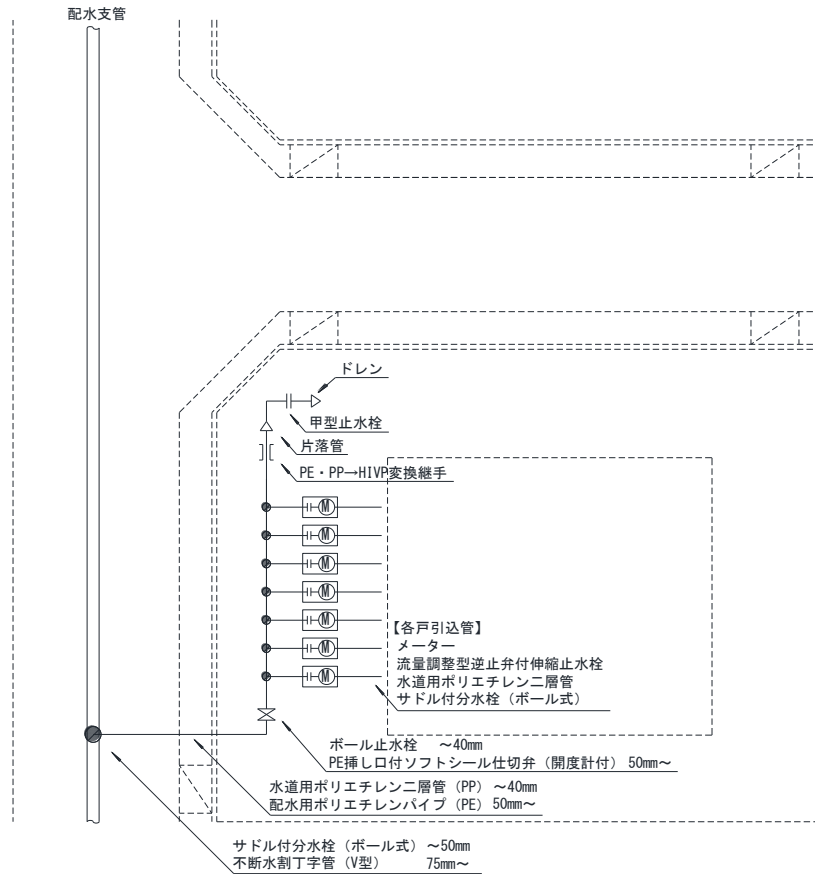
○口径 50mm



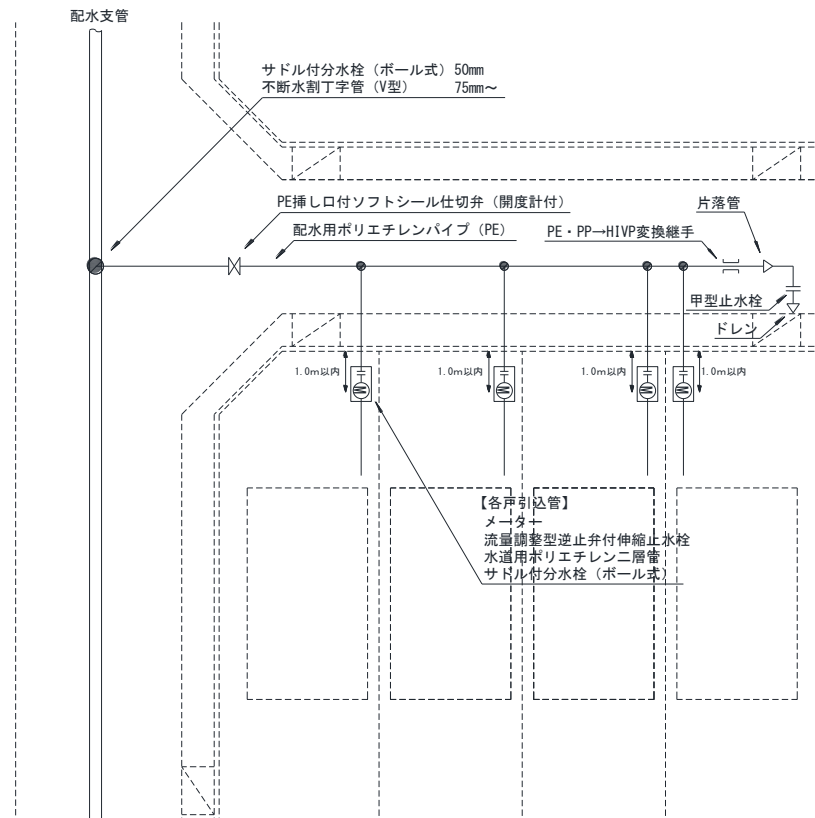
○口径 75mm 以上



○共同住宅等で各戸メーターの場合



○給水主管工事の場合



5.2 給水管の取出し

5.2.1 分岐(P.74)

1. 分岐の条件及び施工の留意点

(8) 配水管からの分岐口径は下記のとおりとする。

下記に記載の無い口径は柏原水道センターと協議すること。

配水管		分岐管の口径(mm)								
管種	口径(mm)	20	25	40	50	75	100	150	200	
ダクタイル鋳鉄管 及び 鋳鉄管	75	A			A※	分岐 不可				
	100				B※					
	150				B※					
	200				B※					
	250				B	B※				
	300				B※					
塩化ビニル管	40	A			分岐 不可					
	50									C※
	75									A※
	100				B※	B※				
	150				B	B※				
配水用ポリエチレン管	50	A			C※	分岐 不可				
	75				A※					
	100				B※	B※				
	150				B	B※				
ポリエチレン二層管	40	A			分岐 不可					
	50									C※

A	サドル付分水栓
B	不断水割T字管又は二受T字管
C	チーズ
※	分岐可否については協議による

5.2.2 撤去(P.75)

2. 不要となった給水装置は、漏水の原因や盗水のリスク等に繋がるため、必ず分岐箇所からすべて撤去すること。

5.2.3 仕切弁等の設置(P.75)

2. 設置する仕切弁、止水栓の材料及び弁室の構造は次のとおりとする。

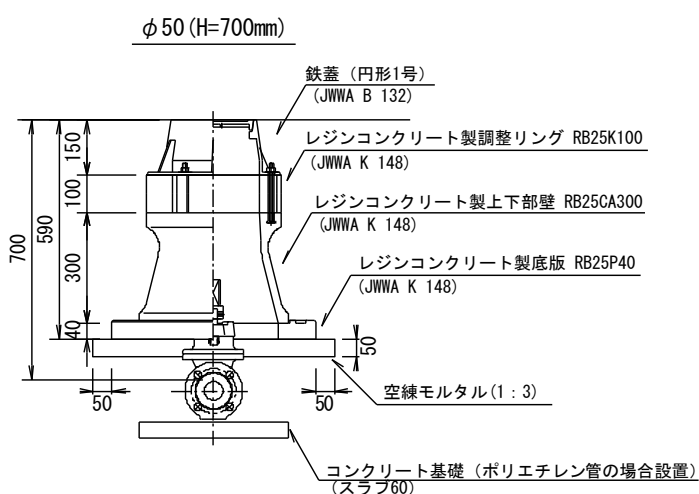
(1) 仕切弁

- ① 仕切弁はφ50mm以上の給水管及び給水主管に設置する。
- ② 仕切弁の材料はソフトシール仕切弁(開度計付)とし、材質はFCD製の内外面エポキシ樹脂粉体塗装とする。
- ③ 仕切弁のスピンドルキャップ天端と地表面との間隔は15cm～45cmとする。45cmを超える場合は、継ぎ足し棒(差込式)により調整する。

(2) 仕切弁ボックス

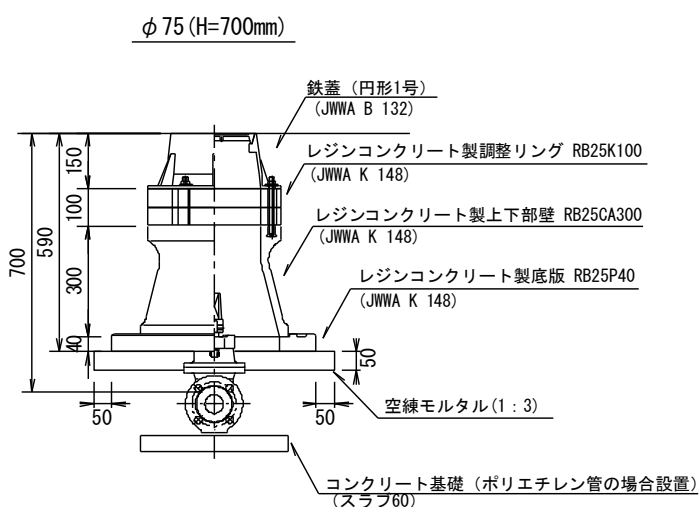
- ① 材質はレジンコンクリート製とする。
- ② 耐荷重は T-25 とする。
- ③ $\phi 50\text{mm}$ ～ $\phi 150\text{mm}$ は円形1号、 $\phi 200\text{mm}$ は円形2号を使用する。
- ④ ボックスの調整は必ず調整リングを使用する。(モルタル等での調整は不可)
- ⑤ 再生プラスチック製調整リング(RB25K50)は 2 枚以上重ねて設置しない。
- ⑥ 配水用ポリエチレン管仕切弁の底には沈下防止のためのコンクリート板又はスラブ 60 を設置する。
- ⑦ レジンコンクリート製底版の下には空練モルタル 5cm を設置する。
- ⑧ 仕切弁ボックスの設置標準図及び蓋デザインは下記のとおりとする。下記に記載の無い口径及び空気弁、消火栓の標準図は柏原水道センターと協議すること。

<仕切弁ボックス設置標準図>



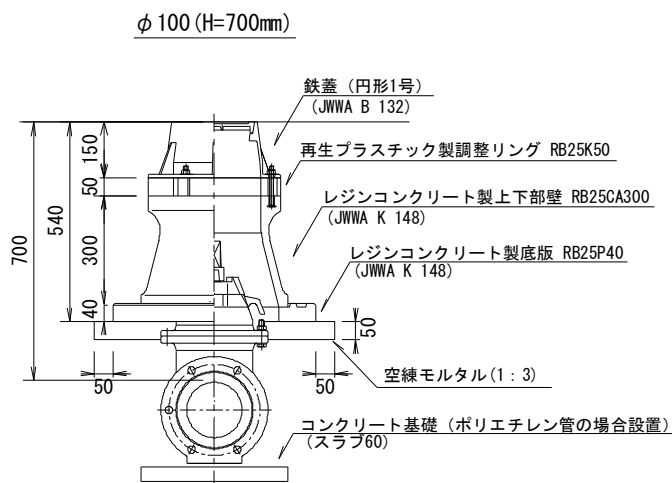
材料	H	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200
円形1号鉄蓋		1	1	1	1	1	1	1
RB25K50		1		1	1	1	1	1
RB25K100			1					
RB25CA150								
RB25CA300		1	1					
RB25A150				1	1	1	1	1
RB25B100					1			1
RB25B200						1		
RB25B300							1	1
RB25C300				1	1	1	1	1
RB25P40		1	1	1	1	1	1	1
スラブ 60		1	1	1	1	1	1	1

※調整ボルト : M12×150 (H=700)
M12×110 (H=700以外)



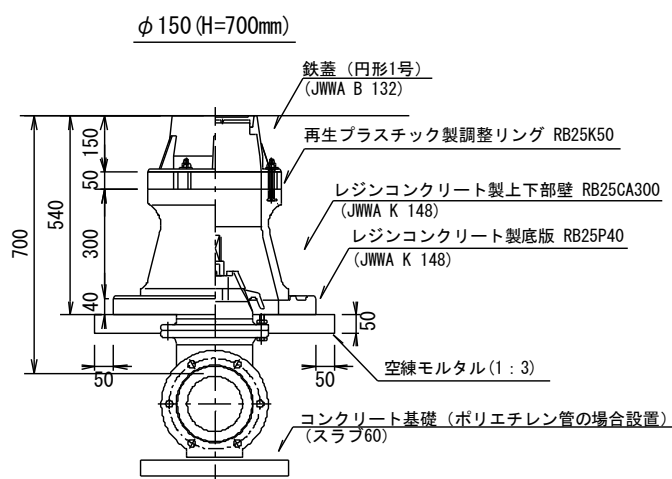
材料	H	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200
円形1号鉄蓋		1	1	1	1	1	1	1
RB25K50		1		1	1	1	1	1
RB25K100			1					
RB25CA150								
RB25CA300			1					
RB25A150		1		1	1	1	1	1
RB25B100		1			1			1
RB25B200						1		
RB25B300							1	1
RB25C300				1	1	1	1	1
RB25P40			1	1	1	1	1	1
RB25P60		1						
スラブ 60		1	1	1	1	1	1	1

※調整ボルト : M12×150 (H=700)
M12×110 (H=700以外)



H 材料	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200
円形1号鉄蓋	1	1	1	1	1	1	1
RB25K50	1	1	1	1	1	1	1
RB25K100							
RB25CA150							
RB25CA300		1					
RB25A150	1		1	1	1	1	1
RB25B100	1			1			1
RB25B200					1		
RB25B300						1	1
RB25C300			1	1	1	1	1
RB25P40		1	1	1	1	1	1
RB25P60	1						
スラブ 60	1	1	1	1	1	1	1

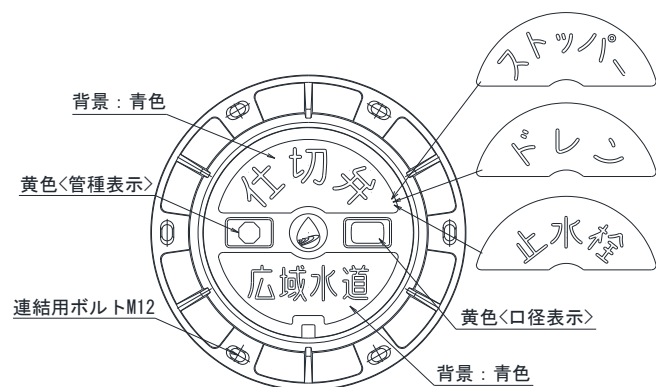
※調整ボルト：M12×110



H 材料	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200
円形1号鉄蓋	1	1	1	1	1	1	1
RB25K50	1	1		1	1	1	1
RB25K100			1				
RB25CA150	1						
RB25CA300		1	1				
RB25A150				1	1	1	1
RB25B100					1		
RB25B200						1	
RB25B300							1
RB25C300				1	1	1	1
RB25P40	1	1	1	1	1	1	1
スラブ 60	1	1	1	1	1	1	1

※調整ボルト：M12×150 (H=800)
M12×110 (H=800以外)

<仕切弁ボックス蓋デザイン>



<管種表示>



<口径表示>



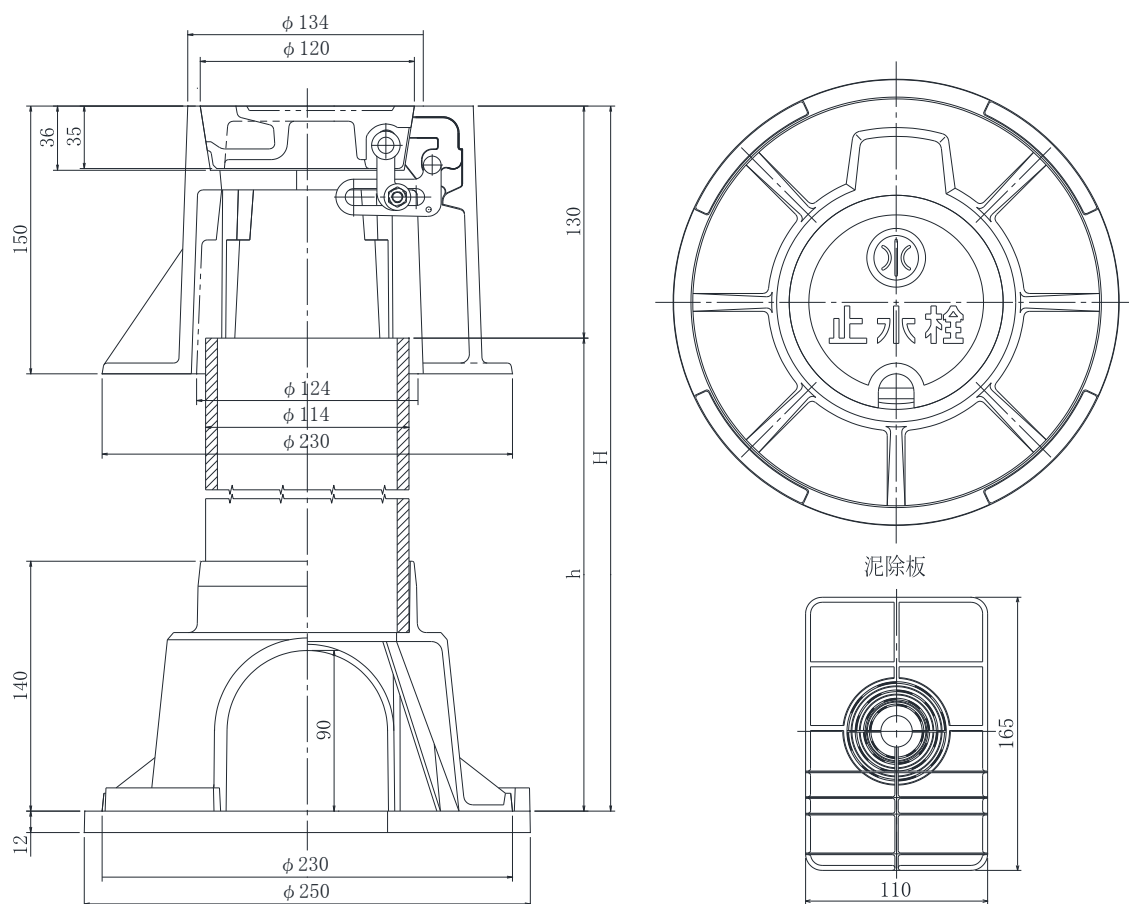
(3) 止水栓

- ① $\phi 40\text{mm}$ 、 $\phi 50\text{mm}$ の給水管のメーター2次側にはボール止水栓を設置する。
- ② 給水主管工事及び共同住宅等で各戸メーターを設置する場合の給水管工事においては、末端ドレンに甲型止水栓を設置する。

(4) 止水栓ボックス

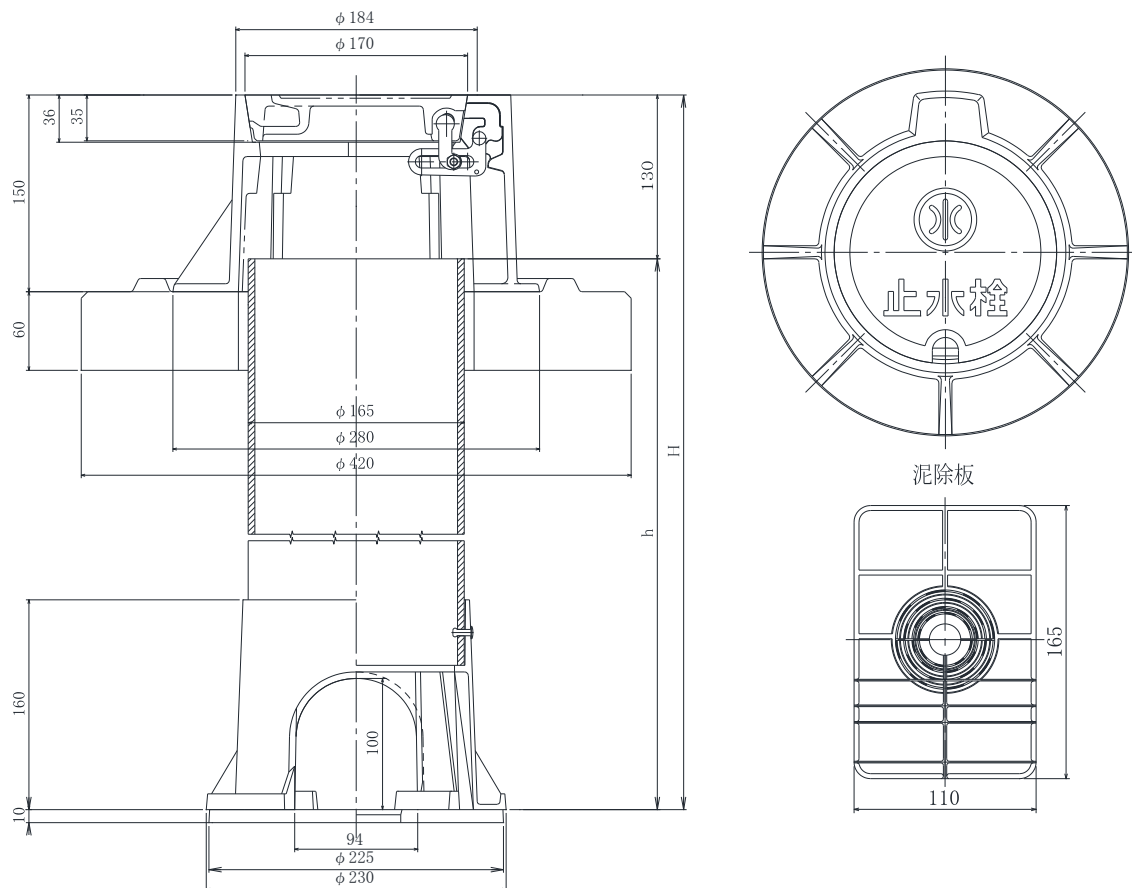
- ① 公道上(車が通行する場所)に止水栓を設置する場合は、 $\phi 25\text{mm}$ 以下は耐荷重 T-14(C 形 2 号)の止水栓ボックス、 $\phi 40\text{mm} \sim \phi 50\text{mm}$ は耐荷重 T-14(C 形 3 号)の止水栓ボックスを使用する。ただし、敷地内(車が通行しない場所)に止水栓を設置する場合は、耐荷重 T-8 の止水栓ボックスを使用してもよい。
- ② 耐荷重 T-14(C 形 2 号)の止水栓ボックス胴部は耐衝撃性硬質塩化ビニル管 $\phi 100\text{mm}$ を使用し、高さ調整を行う。
- ③ 耐荷重 T-14(C 形 3 号)の止水栓ボックス胴部は耐衝撃性硬質塩化ビニル管 $\phi 150\text{mm}$ を使用し、高さ調整を行う。
- ④ 止水栓ボックスの標準図は下記のとおりとする。ただし、各寸法はメーカーによって若干異なる。

<止水栓ボックス T-14(C 形 2 号) 標準図>

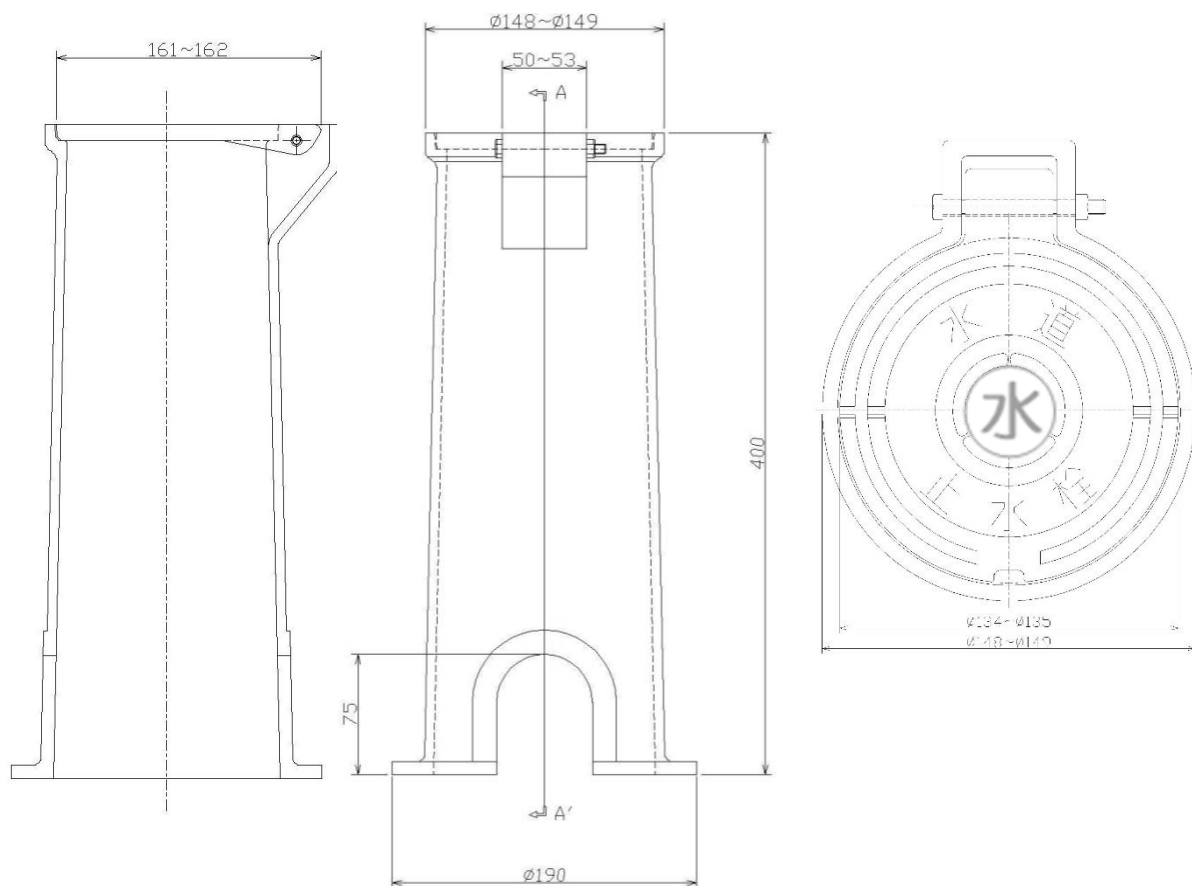


※専用底板を使用しない場合は、コンクリート平板(300×300×60mm)で代用使用することも可能。

＜止水栓ボックス T-14(C形3号) 標準図＞



＜止水栓ボックス T-8 標準図＞



5.2.4 配管(P.76)

1. 口径 40mm 以下はポリエチレン二層管、口径 50mm～150mm は配水用ポリエチレン管、口径 200mm 以上はダクタイル鋳鉄管(GX 形)を使用する。

1. 道路等の配管

- (6) 水路等を上越しする場合、鞘管の管種は下記のとおりとする。

給水管口径 40mm 以下:硬質塩化ビニルライニング鋼管 φ 50 (SGP-VD)

給水管口径 50mm 以上:ステンレス鋼管又は鋳鉄管

- (7) 水路等を伏越しする場合、鞘管の管種は下記のとおりとする。

給水管口径 40mm 以下:柏原水道センターと協議すること。

給水管口径 50mm 以上:ステンレス鋼管又は鋳鉄管

- (8) 口径 40mm 以上の給水管及び給水主管で水路等を上越しする場合は、水路上越し前にバルブの設置が必要な場合があるため、事前に柏原水道センターと協議すること。

5.3 土工事等

5.3.1 土工事(P.78)

7. 配水用ポリエチレン管布設の際は、管周り 10cm 以上再生砂で埋戻しを行う。

5.3.4 給水管の明示(P.79)

4. 管明示テープの設置は、柏原水道センターに確認すること。

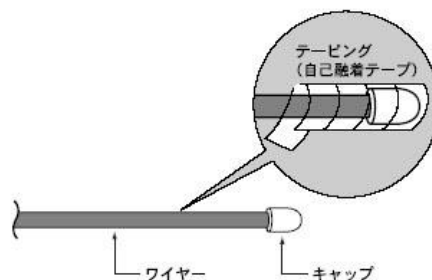
5. 給水管及び給水主管にはロケーティングワイヤーを設置すること。施工方法はロケーティングワイヤー施工要領のとおりとする。

<ロケーティングワイヤー施工要領>

キャップ+自己融着テープで 先端部処理

1. ワイヤー先端部の処理

ワイヤーの先端部は、防水処理とキャップ外れ防止のため、
専用キャップ+自己融着テープで先端部の処理を行うこと。
先端処理にビニールテープや管明示テープなど他の材料
を使用してはならない。



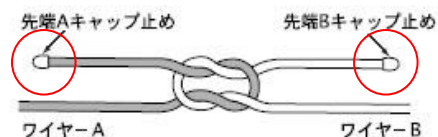
2. ワイヤー相互の接続

キャップ+自己融着テー プで先端部処理

キャップ+自己融着テー プで先端部処理

(1) ワイヤーAとワイヤーBを結ぶ。

キャップ+自己融着テープで先端部の処理を行う。



(2) 結び目をねじってAの先端をB側のワイヤーに、 Bの先端をA側のワイヤーに向ける。

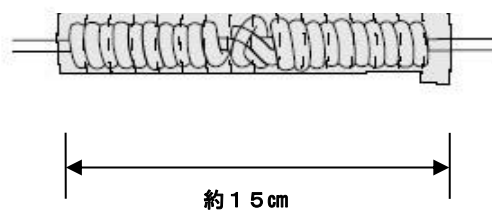


(3) Aの先端をBのワイヤーに、Bの先端をAの ワイヤーにそれぞれすきまなく15cm程度巻く。



(4) 巻きつけた上から自己融着テープで テーピング処理をする。

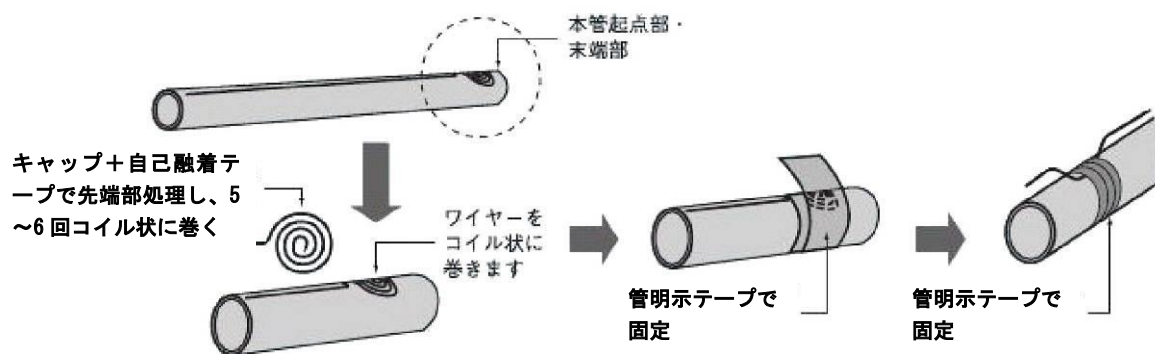
自己融着テープでテーピング処理



3. 配水管への施工

(1) 本管(配水管)部

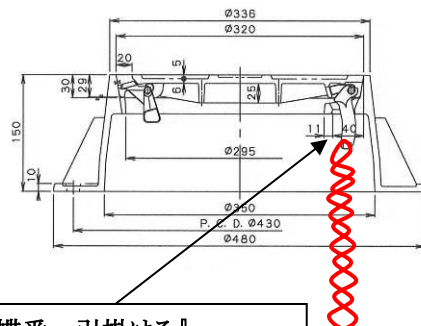
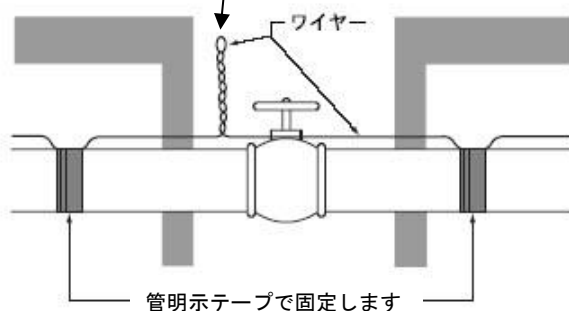
配水管起点部及び末端部に、キャップ+自己融着テープで先端部処理したワイヤーを、5～6回程度コイル状に巻いて管明示テープで固定する。固定後、ワイヤーを配水管上に若干の緩みをもたせながら配線し、2m程度の間隔で管明示テープを使用し固定する。



(2) 仕切弁、消火栓、空気弁、止水栓ボックス部

仕切弁、消火栓、空気弁、止水栓ボックスがある場合は、ワイヤーを切断せず、ねじって折り返して輪をつくり立ち上げ、『ボックス蓋の蝶番部分に引掛ける』もしくは『結束バンドかステンレス針金で蝶番座へ固定』

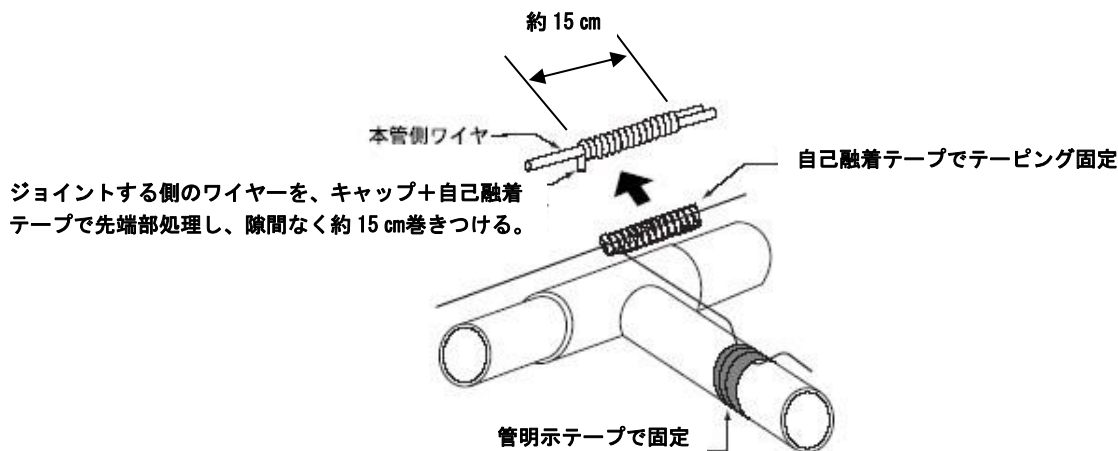
ワイヤーを切断せず、ねじって折り返して輪をつくりボックス上部まで立ち上げる



ねじったワイヤーを『ボックス蓋蝶番へ引掛ける』
もしくは『結束バンドかステンレス針金で蝶番座へ固定』

(3) T字管部

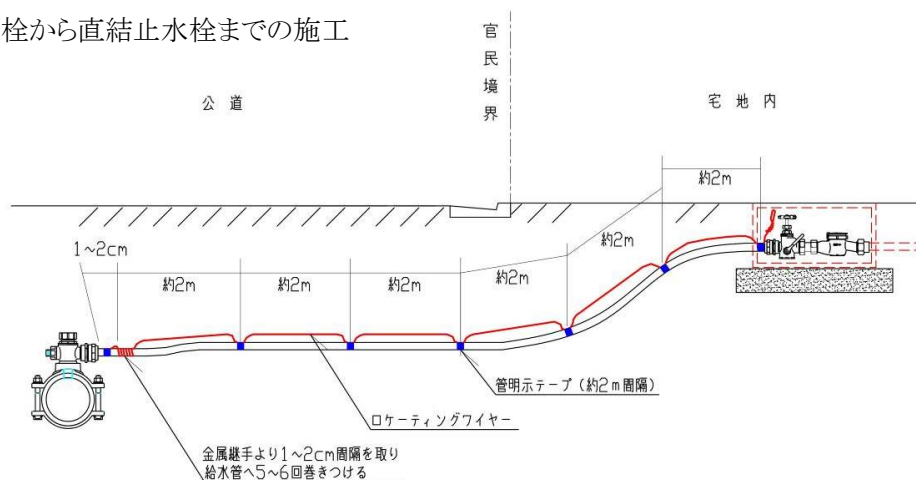
T字管等の分岐箇所については、本管側のワイヤーにキャップ+自己融着テープで先端部処理したワイヤーを隙間なく15cm程度巻きつけ、自己融着テープでテーピング固定する。



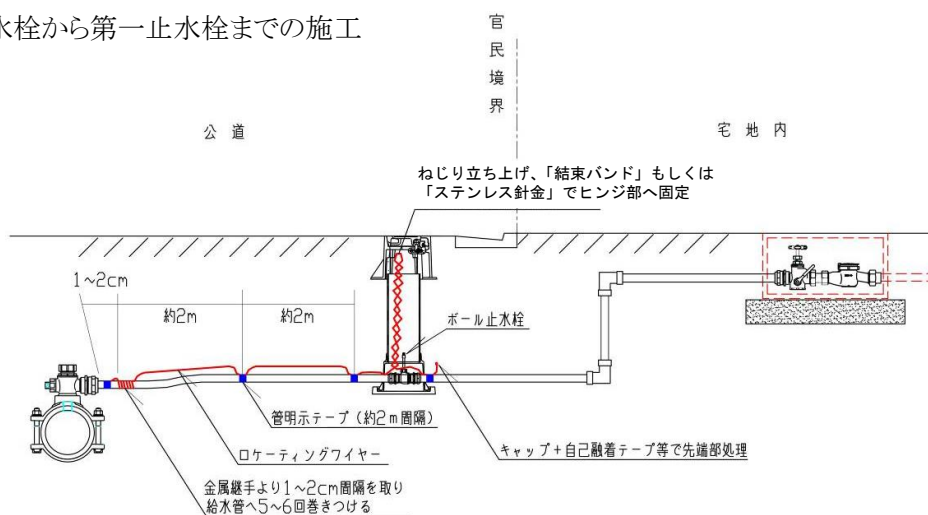
(4) 給水管部

ロケーティングワイヤーをパイプに少々緩みを持たせて配線する。このとき、緩みを持たせすぎないよう2m程度の間隔で管明示テープを使用し固定する。分岐部分はキャップ+自己融着テープで先端部処理後、分水栓金具より1~2cm離してワイヤーを給水管に5~6回巻きつけ、管明示テープで固定する。

■サドル分水栓から直結止水栓までの施工

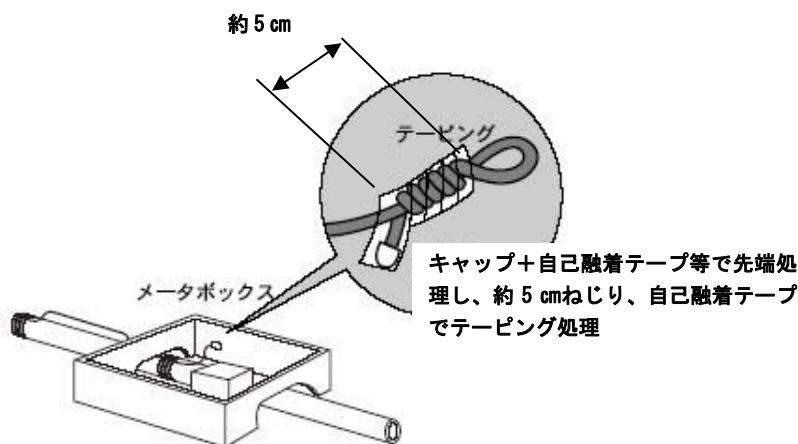


■サドル分水栓から第一止水栓までの施工



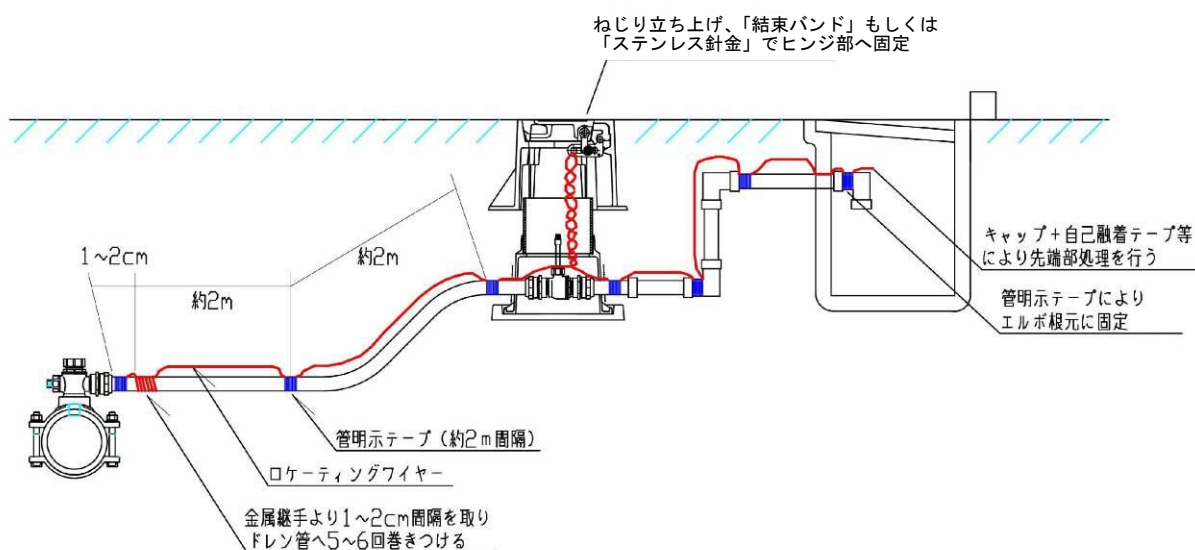
(5) メーターボックス部

メーターボックス内は、**キャップ+自己融着テープ**で先端処理後、**5cm程度**折り返して、ねじり線状にし、自己融着テープでテーピング処理を行う。



(6) ドレン管部

- ① ロケーティングワイヤーをパイプに少々緩みを持たせて配線する。このとき、緩みを持たせすぎないよう**2m程度の間隔**で管明示テープを使用し固定する。分岐部分は**キャップ+自己融着テープ**で先端処理後、分水栓金具より**1~2cm**離してワイヤーをドレン管に**5~6回**巻きつけ、管明示テープで固定する。
- ② 止水栓ボックス内でねじって折り返して輪をつくり立ち上げ、**結束バンド**もしくは**ステンレス針金**でヒンジ部へ固定する。その際、蓋の開閉に支障が無いよう注意すること。
- ③ ドレン管出口までワイヤーを這わせ、**キャップ+自己融着テープ**で先端処理を行い、管端部を管明示テープ等で固定する。

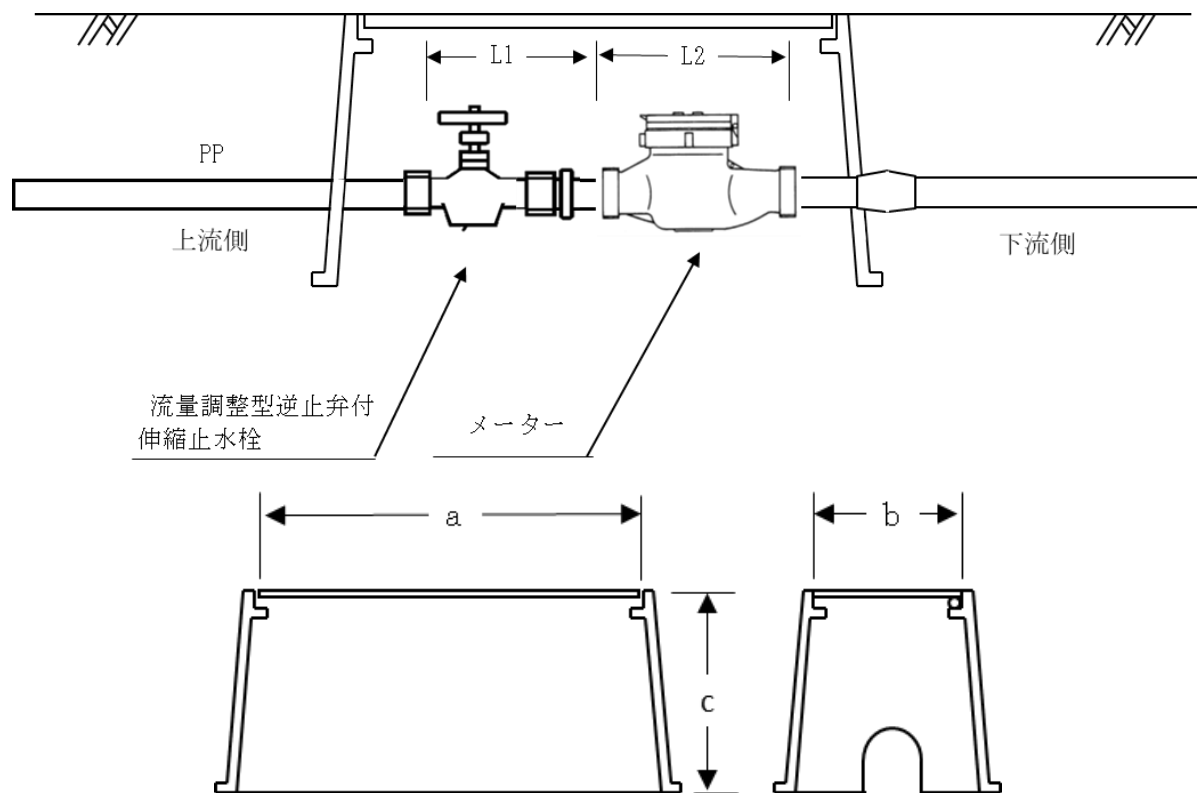


5.4 メーター設置基準

5.4.1 メーター室の構造(P.82)

1. (1) (2) 口径 20mm～100mm のメーター室の構造は次のとおりとする。

○口径 20mm、25mm、40mm

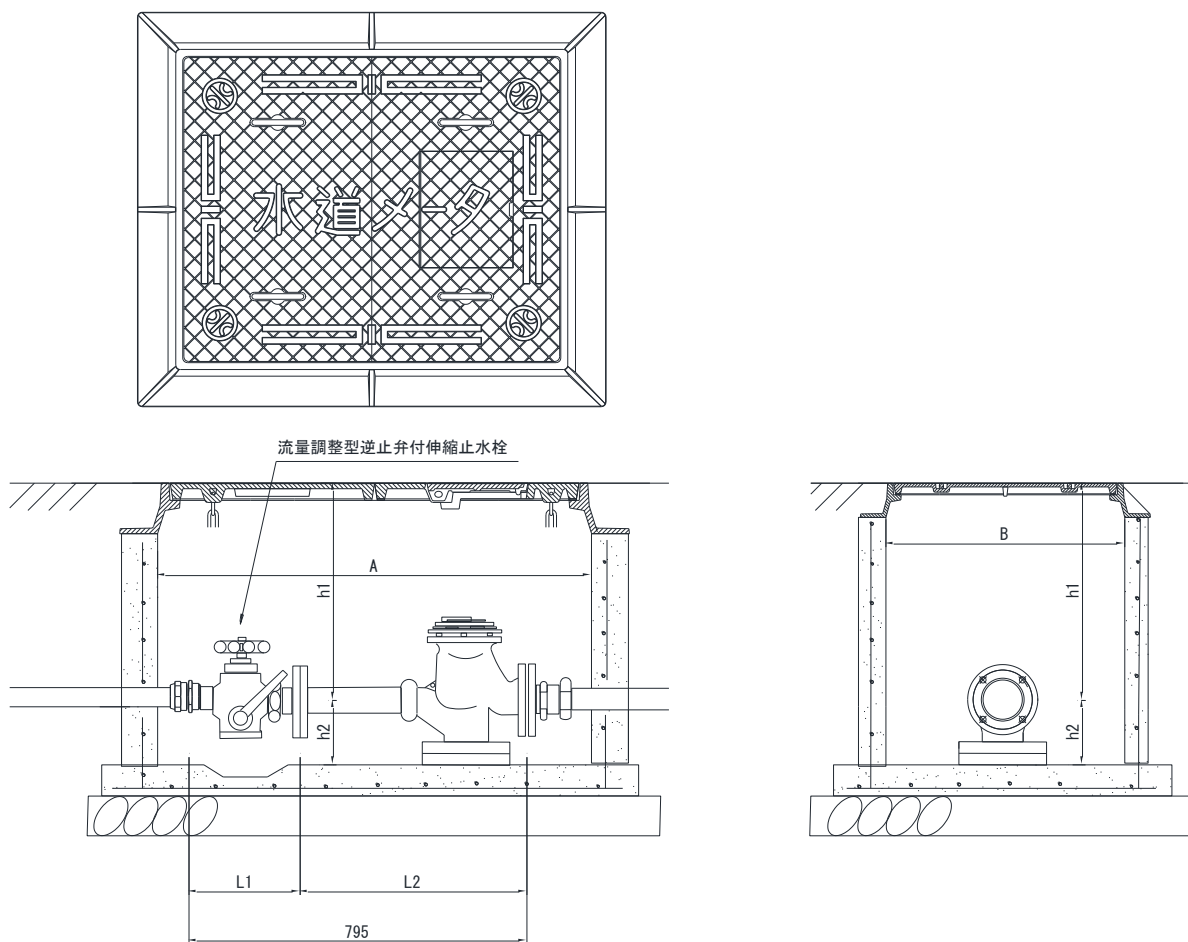


(単位:mm)

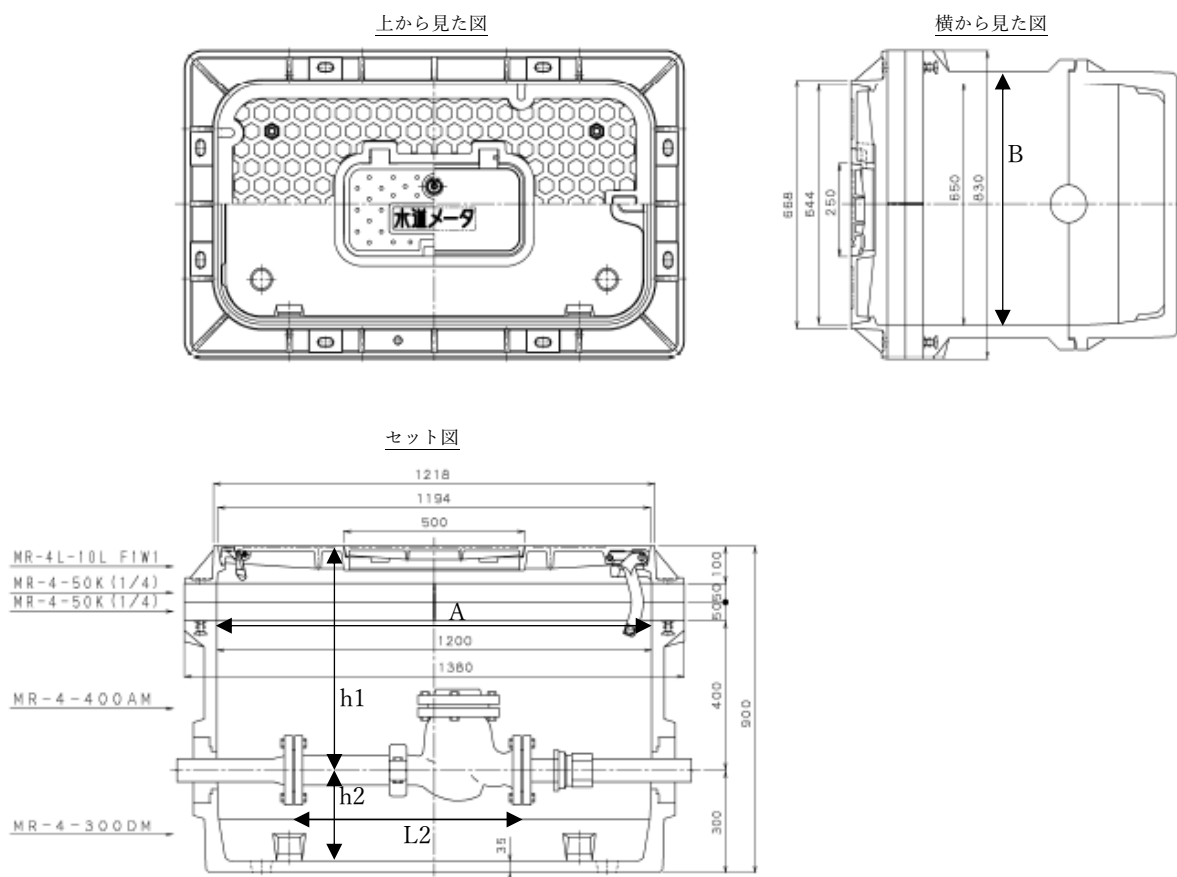
メーター口径(mm)	L1	L2	a	b	c
20	119～133.5	190	410	195	175
25	135～150.5	225	410	195	175
40	193～198	245	552	297	240

- ① a、b は最小寸法、c は参考寸法とする。
- ② メーターボックスの基礎としてコンクリートブロックもしくはレンガブロック4つを設置し、ボックスを据え付けること。
- ③ 流量調整型逆止弁付伸縮止水栓の副弁キーの操作に支障をきたすことが無い位置にボックスを据え付けること。

○口径 50mm(参考図)



○口径 75mm、100mm(参考図)



メーター口径	メーター室寸法		止水栓長さ	メーター長さ	メーター深度	
	A	B	L1	L2	h1	h2
50	900 以上	700 以上	235	560	300 以上	130 以上
75	1200 以上	610 以上	-	630	425 以上	200 以上
100	1200 以上	650 以上	-	750	450 以上	240 以上

- ① 上記は参考であり、メーター交換が容易に出来る寸法とする。設置等の詳細については事前に柏原水道センターと協議すること。
- ② 基準を満たせば二次製品、現場製作どちらでも可とする。品質については柏原水道センターと協議すること。
- ③ 検針用小蓋付の弁室蓋を使用すること。
- ④ メーターボックスの底には沈下防止のためのコンクリートスラブを設置すること。
- ⑤ メーターボックスは土砂の流入を防ぐ構造にすること。
- ⑥ メーター2 次側のフランジからメーターボックスの壁まで 10cm 以上確保すること。
- ⑦ 流量調整型逆止弁付伸縮止水栓のハンドルと副弁キーの操作に支障をきたすことが無い位置にボックスを据え付けること。

(3) 複式メーターボックス

複式メーターボックスは承認しない。

6. 直結(直圧・増圧)式の施行基準

6.2 直結増圧式(P.104)

1. 適用条件

- (2) 近隣の給水に及ぼす影響を考慮し、給水管口径及びメーター口径 75mm は認めない。

7. 検査

7.2 企業団が行う検査(P.110)

3. 検査内容

(1) 分岐工事検査

② 穿孔前の水圧検査

水圧検査方法は別冊表7-1のとおりとする。

別冊表 7-1 水圧検査方法(柏原水道センター)

種 別	水圧検査方法	立会頻度
給水管 (φ 20mm、φ 25mm)	管路水圧(サドル分水栓～直結止水栓)を0.75MPaに 上昇後、1分間放置 ↓ 圧力低下がなければ合格	1給水装置毎 (穿孔前)に1回
給水管 (φ 40mm以上)	管路水圧(サドル分水栓又は不断水割T字管～直結止水栓 又は仕切弁等)を0.75MPaに上昇後、10分間放置 ↓ 0.65MPa以上あれば合格	1給水装置毎 (穿孔前)に1回
給水主管	管路水圧(全路線)を0.75MPaに上昇後、1時間放置 ※チャート紙にて計測 ↓ 0.65MPa以上あれば合格	開始時及び終了 時に1回ずつ
不断水割T字管 不断水バルブ	1.00MPaに上昇後、5分間放置 ↓ 圧力低下がなければ合格	1給水装置毎 (穿孔前)に1回

※チャート紙にて計測する場合は充水後に管膨張等が起こることを考慮し、前日から加圧して水圧を安定させておくこと。

(2) 竣工検査

⑦ 写真管理

竣工図書に添付する工事写真の内容は次のとおりである。

工事写真一覧表（給水管）

番号	工種	撮影内容	撮影頻度
1	工事着手前・完成	現況	着工時 完了時
2	材料検収	品質・規格・寸法等が確認できるもの一式	適宜
3	掘削状況	舗装切断工～路床掘削工	適宜
4	配管～穿孔状況	配管全景 ロケーティングワイヤー布設状況 水压テスト(テストゲージ、全景撮影) ※センター職員の立会が確認できるもの 穿孔排水状況 コア挿入状況(被分岐管が铸铁管の場合) PE 融着継手インジケーター撮影(PE 配管の場合)	全箇所
5	給水管オフセット	隣接地境界からの寄り(分岐位置及び引込位置)検尺 土被り検尺 分岐位置のオフセット(2点以上)	全箇所
6	配水管(被分岐管) オフセット	道路幅員検尺 官民境界からの寄り検尺 土被り検尺	全箇所
7	埋戻状況	埋設標識シート設置状況 埋戻工～舗装仮復旧工(転圧状況及び厚み計測)	適宜
8	メーターボックス設置状況	蓋を開けボックス内が確認できるもの	全箇所
9	既設管撤去状況	分水栓閉止状況(既設分岐位置はオフセット撮影) 既設管撤去状況	施工箇所
10	その他	柏原水道センターが必要と認めるもの	適宜

工事写真一覧表（給水主管）

番号	工種	撮影内容	撮影頻度
1	工事着手前・完成	現況	40m 毎
2	材料検収	品質・規格・寸法等が確認できるもの一式	適宜
3	掘削状況	舗装切断工～路床掘削工	40m 毎
4	配管状況	配管全景（管材が明瞭に確認できるよう撮影）	全箇所
5		異形管配管により土被りや法線の変化した箇所 （寄り、土被りが確認できるように検尺撮影）	変化部 全箇所
6		PE 融着継手インジケータ撮影（PE 配管の場合）	全箇所
7		配管出来形（寄り、土被り）	20m 毎
8		不断水及びサドル分水栓穿孔・排水・コア挿入状況	全箇所
9	埋戻状況	ロケーティングワイヤー・管明示テープ設置状況 埋設標識シート設置状況 管下（10cm）及び管上（10cm）保護砂埋戻し状況 埋戻工～舗装仮復旧工（転圧状況及び厚み計測）	40m 毎
10	仕切弁室等設置状況	弁室設置状況	全箇所
11	水圧テスト状況	チャート記録、全景撮影 ※センター職員の立会が確認できるもの	全箇所
12	既設管撤去状況	分水栓閉止状況（既設分岐位置はオフセット撮影） 既設管撤去状況	施工箇所
13	その他	柏原水道センターが必要と認めるもの	適宜